

## Ⅲ 指導・育成

## 第7分科会 研究・研修

## ○ 研究課題 ○

## 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方

## ■ 分科会の趣旨 ■

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子どもの育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教職員が資質・能力をより一層高め、教育力を向上させることが求められる。

これからの教職員に必要とされる指導力は、教科指導・生徒指導・学級経営等の能力に加え危機管理能力や保護者等への対応力等をも含めた総括的な実践的指導力であり、児童や学校・地域の実情に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。加えて、教職に対する強い情熱をもち、教育に関わる専門家として、保護者と連携・協働を図り、児童の人格形成によい影響を与える存在となることが期待されている。

校長は、教職員一人一人の学級経営力・生徒指導力・校務企画運営力などを見極め、個々に応じた的確なミッションと具体的な解決に向けたビジョンをもたせるとともに、教職員の資質・能力、チーム力の向上、学校経営への参画意識を高める研究・研修を進めていく必要がある。

本分科会では、教職員の資質や能力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

## ■ 研究の視点 ■

## (1) 教職員としての資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

学校の教育力を高めるためには、個々の教員の指導力の向上と共通の目標の達成に向けて機能する教員集団をつくる必要がある。また、教員の資質・能力の向上のためには、職場の同僚同士のチームワークや学び合いによる全員のレベルアップを図る視点が必要となる。

校長は、教員一人一人の意識改革を促し、学校教育目標の実現に向けて、自校の実態や目指す姿を明らかにしながら、重点課題を絞り、教員の資質・能力が高まる校内研究体制の在り方を追究していかなければならない。

このような視点から、教員の資質・能力の向上を目指す校内研究、展望や参画意識等をもたせる研修を推進していくための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

## (2) キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

学校の教育力は、教職員一人一人の資質・能力の向上と密接に関係している。現在、世代交代が進み、経験値の高い教職員の大量退職と、若い世代の大量採用の時を迎えている。また、少子化による学校の統廃合や小規模校の増加等の状況からも人材育成は喫緊の課題である。今後、年齢構成が変化する学校現場において、それぞれキャリアステージに応じた役割と求められる資質・能力に応じた研修の充実が重要となる。校長は、意図的・計画的な研修の機会を設定し、教職員一人一人の資質・能力と参画意識を高める必要がある。

このような視点に立ち、教職員に将来の展望や学校経営への参画意識をもたせる研修を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

研究  
発表

## これからの校内研修の在り方と 教職員一人一人の資質・能力を高める方策

旭川地区 旭川市立西御料地小学校 石ヶ森 孝 順

### I 趣 旨

教育に関する様々な課題に対応し、学校力を向上させ、質の高い教育を提供するためには、教職員一人一人の資質・能力を向上させることが不可欠である。そこで、これまでの中央教育審議会答申や「北海道における教員育成指標」を踏まえ、求められる資質・能力を次のとおり整理した。

- 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力  
(使命感や責任感、教育的愛情)
- 専門職としての高度な知識・技能  
(専門的知識、実践的指導力、教科指導・生徒指導・学級経営等を的確に実践できる力)
- 総合的な人間力  
(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、連携・協働できる力)

旭川市では、第2期旭川市学校教育基本計画(令和元～9年度)に基づく教育が進められる。この中で、学校の教育力の向上が、基本施策として位置付けられている。具体的には、「旭川市確かな学力育成プラン」における教師の資質・能力向上支援として、法定研修をはじめとする各種研修事業、授業力向上実践研究推進事業などが実施されている。また、本市には上川教育研修センターや旭川市教育研究会などの研究機関による研修の場があり、教職員の意欲に応えることができる研修の環境が整っている。一方で、本年1月に「旭川市立小中学校働き方改革推進プラン」が策定されており、教職員の勤務時間の縮減と負担軽減により、教職員が子どもと向き合える環境づくりを推進することが求められている。

各学校においては、校内研修が定例化されているが、その取り組み方は学校ごとに異なり、校内研修を活性化し推進していく上では、様々な課題があるものと考えられる。

このような中、旭川市小学校長会では、各学校における校内研修の現状を調査し、今後校長が重視すべき方向性と果たす役割について提言する。

### II 研究の概要

#### 1 研究推進計画

- (1) 研究の視点  
次に示す二つの視点に基づき、校長が重視すべきと考える方向性を示すとともに、方策を提案する。また、方策を具体的に推進している実践事例を掲載する。  
①【視点1】 これからの校内研修の在り方  
②【視点2】 教職員一人一人の資質・能力を高める方策
- (2) 年次計画  
1年次(令和元年度)  
～ 校長の意識と各学校の現状に関する実態把握  
2年次(令和2年度)  
～ 各学校における実践と検証

#### 2 本年度(1年次)の研究

- (1) 「研究・研修」のおさえ  
校内研究は校内研修に包含されるものであることから、本提言においては、「研究・研修」を「校内研修」という意味付けで扱う。
- (2) アンケート調査の実施  
本校長会では、旭川市内54校の小学校長を対象に、「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方」についてのアンケート調査を実施した。この調査は、次のⅠ～Ⅲの質問内容から構成しており、本研究発表の基礎資料とすることを目的としている。

Ⅰ 「校内研修」について、教員意識・研修内容・運営の工夫に関する16の質問項目に回答を求める。校長は、自身の展望と自校の現状の視点から回答する。

Ⅱ 「教職員一人一人の資質・能力向上」のための研修について、研修内容・研修方法・外部との連携に関する29の質問項目に回答を求める。校長は、自身の必要感と自校の現状の視点から回答する。

Ⅲ 「北海道における教員育成指標」に基づき、自校の初任・中堅・ベテラン各段階教員の資質・能力が、どの程度十分であるかについて回答を求める。  
なお、本提言では、求める教師像を〈使命感のある教師〉〈指導力のある教師〉〈連携・協働できる教師〉に整理した。

## (3) アンケート調査結果から見える旭川市の現状

## ① 質問内容Ⅰ

- ・校内における共同研究・研修体制を充実していく上で、主体性や目的意識をもつこと、働き方改革を踏まえ校内研修を進めることについて、校長自身は必要と考えているが、自校の現状には課題がある。
- ・仮説検証型の校内研究よりも、児童の実態を共有し、学校の重点目標と関連付けた効果的・効率的な校内研修が必要と考えている。

## ② 質問内容Ⅱ

- ・54校すべての校長は、授業改善を重視した研修が必要と考え、自校でも行っている。
- ・新しい教育課題(カリキュラム・マネジメントやプログラミング教育等)に対応した研修、育成すべき資質・能力や主体的・対話的で深い学びを重視した研修については、7割程度が自校で行っており、9割以上の校長は必要と考えている。
- ・研修時間を生み出す工夫、授業参観や研修に参加しやすい補欠体制の工夫、さらには小・中連携を生かした研修を自校で行っている割合は、4割程度であるが、7割以上の校長は必要と考えている。

## ③ 質問内容Ⅲ

## 〈使命感のある教師〉

- ・いずれの段階に対しても、使命感や責任感、教育的愛情は十分とする一方で、総合的な人間力の育成が必要と考えている。
- ・ベテラン段階に対して、教職に対する強い情熱や主体的に学び続ける姿勢の育成が必要と考えている。

## 〈指導力のある教師〉

- ・初任段階に対しては、専門的な知識・技能のほか、授業力、生徒指導力、学級経営力など、指導力全般についての育成が必要と考えている。
- ・中堅段階に対しては、子ども理解力や学級経営力など、指導力全般について十分と考えている。
- ・ベテラン段階に対しては、ICTを活用した指導や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、外国語教育など、新たな教育課題への対応が必要と考えている。

## 〈連携・協働できる教師〉

- ・いずれの段階に対しても、地域等との連携・協働力や人材育成に貢献する力の育成が必要と考えている。
- ・初任段階・中堅段階に対しては、コミュニケーション能力は十分と考えている。
- ・ベテラン段階に対しては、連携・協働にかかわる資質・能力全般について、育成が必要と考えている。

## 3 研究の考察

旭川市の現状に関する調査結果を踏まえ、これからの

校内研修を組織的に推進し、教職員一人一人の資質・能力を向上させる上で、校長が重視すべき方向性と方策を考察した。

## (1) 【視点1】における方向性と方策

組織的・効率的な運営を図り、日常実践に生かすことができる校内研修の充実

## ① 仮説検証型の校内研究や公開研究会の見直し

これは、研修方法の改善や公開研究会の開催体制の工夫を図るということである。仮説検証型の校内研究は、データの収集・分析に時間を要し、研究仮説の質や客観性が課題となる。そのため、従来の手法にとらわれず、教師が研修成果を実感できるような取組とする。また、公開研究会の在り方については、自校の教育課題の解決に直結する内容や方法を重視し、教職員が負担を感じることはない体制を整えていく。

## ② 授業の改善や質の向上につながる研修内容の焦点化

これは、求められる授業像について教師間の共通理解を図り、研修の切り込み口を明確にするということである。「よい授業をしたい」という思いは、教師にとって共通の願いである。そのため、見通しや振り返り、思いや考えを広げ深める、見方・考え方を働かせるなどの学習活動に焦点を当てながら、主体的・対話的で深い学びの実現により授業の質を高める取組を進めていく。

## ③ 教育課程の編成に結び付く研修の工夫

これは、教育の専門家としての知識・技能を身に付けさせるものである。新しい学習指導要領の全面实施を目前に控え、これまで以上に専門的な知識や技能の習得が大切である。そのため、学習指導要領の理解はもとより、外国語やプログラミング教育等の授業づくりについて熟知できる取組を進めていく。

## ④ 自校における必要性を踏まえた研修テーマの選択

これは、自校の実態を捉え、様々な教育課題に対応できる力を身に付けさせるものである。今日的な教育課題は、ますます複雑化・多様化している。そのため、いじめ・不登校の解決に向けた手立てのほか、児童理解や保護者対応、小・中連携、さらには危機管理や服務規律などの中から、必要なテーマを研修計画に位置付けていく。

## (2) 【視点2】における方向性と方策

教職員一人一人が校内外において専門性を高めることができる個へのアプローチ

## ① 初任段階教員を育てる研修方法の工夫

これは、学校として組織的・計画的に育成に向けた研修を進めるということである。初任段階教員はいち早く教職全般についての知識・技能を身に付け、プロとしての自覚を高めながら、保護者・地域の信

頼に応えることが大切である。そのため、初任段階教員研修とタイアップさせながら、OJTやメンター機能を活用した研修方法を取り入れていく。

② ベテラン段階教員の学び続ける姿勢の喚起

これは、ベテラン段階教員に学び続ける姿勢を自覚させ、エネルギーやバイタリティに満ちた職場環境の先頭に立つ役割を求めるものである。ベテラン段階教員に対する校長の評価は、厳しい実態がある。そのため、ベテラン段階教員の研修ニーズを把握しながら、マネジメント力や後進指導力の強化など、キャリアステージに応じた研修内容を工夫していく。

③ 「総合的な人間力」を高め合う研修方法の工夫

これは、「総合的な人間力」の理解と自覚を促すものである。職場においては、コミュニケーション力や同僚とチームで対応する力を重視することが大切である。そのため、ワークショップ型やワールド・カフェ型の研修など、マナーと雰囲気大切に、互いの考えや教育観を交流する協働的な話合いの場を工夫していく。

④ 関係機関等との連携を生かした研修の推進

これは、自己啓発への動機付けを図る機会を広げるということである。教職員一人一人の専門性を高めるためには、研修機会を積極的に広げさせることが大切である。そのため、校外での研修に出かけやすい体制づくりをはじめ、外部講師等の専門家を招く研修、また、上川教育研修センターや旭川市教育研究会の研究成果の有効活用を図っていく。

#### 4 実践事例

(1) 【視点1】における実践事例(市内A小学校)

～ 仮説検証型の校内研究や公開研究会の見直し

A校は昨年度、従来の仮説検証型の校内研究から、研究主題に基づき授業実践を積み上げる校内研修へと改善を図った。

今年度は、校務分掌を「研究部」から「研修部」に改め、授業改善を研修テーマとし算数科を窓口研修に取り組んでいる。

また、これまでの公開研究会に代えて、今年度は本校で開催される上川教育研修センターの「校内研修」の講座に全教職員で参加することで、校内研修を広く公開することとしている。

(2) 【視点2】における実践事例(市内B小学校)

～ ワorkshop型やワールド・カフェ型の研修

B校は、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の方法についての研究を道内に発信している。

授業改善を進めるに当たって、実践的指導力や専門的知識が世代間で適切に伝達されるよう、日常的にメンター機能を取り入れたワークショップ型の研修を行っている。世代ごとのグループに分けることで、世

代によって授業づくりなどの視点が異なることが明らかになり、初任段階教員は、授業構築の考え方を深め、ベテラン段階教員は、後進指導力を意識した研修を進めている。

また、公開研究会では、ワールド・カフェ型の研究協議を進めている。授業内容や研究の視点に応じた少人数での話合いと、興味に応じたグループ間の自由な移動を保証することにより、参加者が様々な視点から互いに自由に意見を述べるができる。このことにより、協働的にコミュニケーションが図られ、「総合的な人間力」の向上につながっている。

### Ⅲ まとめ

#### 1 成果

- ・「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方」について、旭川市の小学校長を対象にアンケート調査を実施したことにより、旭川市の現状が浮き彫りとなった。
- ・これからの校内研修を組織的に推進し、教職員一人一人の資質・能力を向上させる上で、校長が重視すべき方向性及び方策を示すことができた。

#### 2 課題

- ・1年次研究の成果について、旭川市小学校長会として共通理解を図り更なる検討を加えていくとともに、各学校における実践と検証を進めていく必要がある。
- ・教育公務員特例法等の一部改正を受け、本年度より毎年度策定される「旭川市教員研修計画」に示された教員研修の課題や基本方針等を踏まえ、実効的な成果を目指していく必要がある。